

# 学校の自己評価に関する研究

## I 研究主題

これからの学校自己評価の在り方

## II 研究主題設定の理由

学校は、学校のもつ様々な条件の下で、その教育目的、目標をどのような体制や方法でより効率的に果たしているかを自ら総合的、客観的に評価し、学校教育の改善に生かさなければならない。

また、これからの学校は、家庭や地域の人々と共に子どもを育てていくという視点に立ち、家庭や地域社会との連携を深め、地域に開かれた学校づくりの推進が求められている。学校が地域に開かれ、家庭や地域と一体となって子どもを育てていくためには、学校の教育目標や具体的な教育計画、活動状況などを保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、学校教育の改善に生かすだけでなく、保護者や地域住民に伝えていくことが大切である。このことにより、学校は説明責任を果たすことになり、また地域の信頼に応えることにもつながる。

このことは、平成10年9月の中央教育審議会答申や平成12年12月の教育課程審議会の答申、また、教育改革国民会議の「教育を変える17の提案」や文部科学省の「21世紀教育新生プラン」において、さらには平成14年3月に公布された小中学校設置基準にも示されたところである。

本市においては、「足利市の教育目標」の具現を目指して作成された学校教育指導計画の中で、学校・家庭・地域社会が一体となってみんなで子どもたちを育てることの重要性を述べ、学校が家庭・地域社会との連携強化を図り、計画・実践・評価・改善に努めることの大切さを示している。

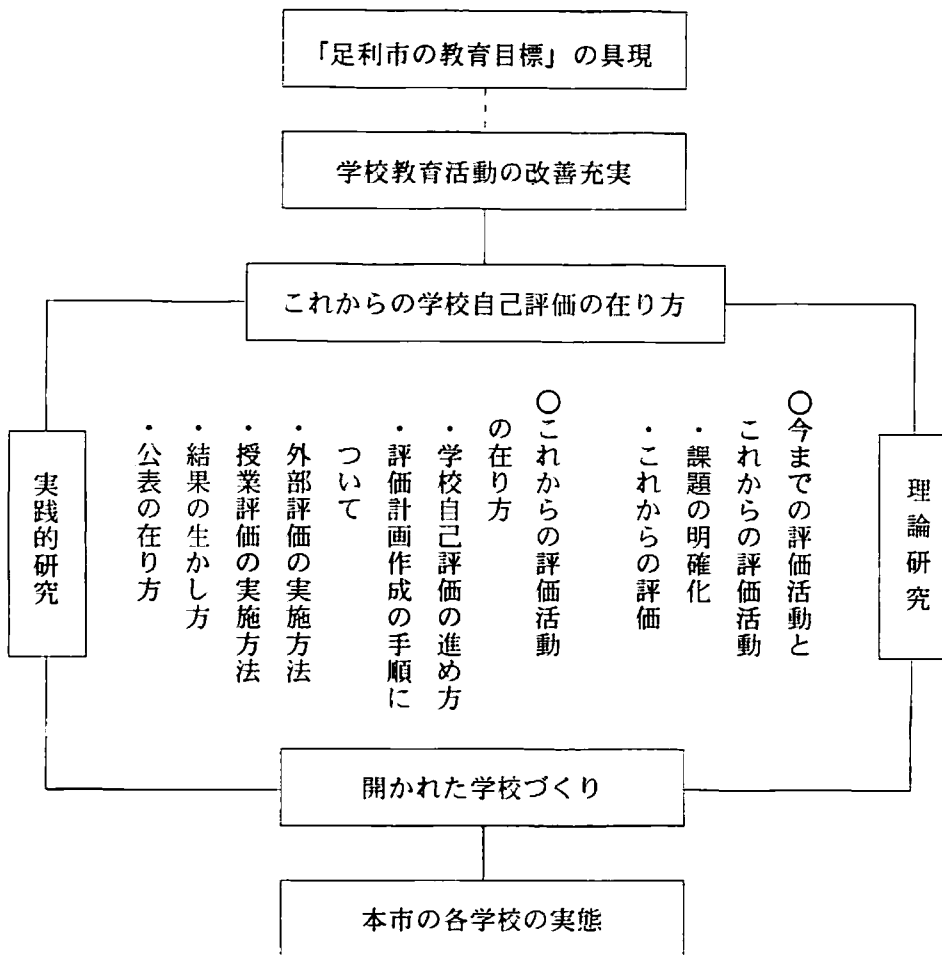
そこで、開かれた学校づくりの推進に努め、学校教育活動の改善充実が図れるよう、これからの学校自己評価の在り方について具体的、実践的に研究に取り組むこととした。

## III 研究推進構想

### 1 研究の基本的な考え方

- (1) 今までの学校評価における課題を明確にし、これからの評価活動の在り方について理論研究をする。
- (2) 理論研究を踏まえ、指定校において実践を通して研究する。
- (3) 評価のための評価でなく、指定校の子どものため、学校改善のための評価であることを十分踏まえる。
- (4) 研究推進に当たっては、委嘱した研究員を中心に他の教職員の協力の下、組織的、計画的、継続的に取り組む。
- (5) 本年度の重点と目指す児童像、そしてその実現に向けての具体策等、教職員間で十分共通理解を図り、研究に取り組む。

## 2 研究推進構想図



## IV 研究の内容

### 1 学校自己評価の意義

私たち学校教育に携わるすべての教職員は、一人一人の子どもたちが認められ、自信をもち、持ち味を十分に発揮して明るく元気に学習や生活に取り組めるよりよい学校をつくりたいと願っている。

わかる授業の展開や、共に学び合う人間関係の育成と意欲的に進んで取り組む主体的な態度の育成を目指した様々な特色ある教育活動、開かれた学校づくりなど、すべてこの願いを達成するための教育実践である。

学校自己評価は、よりよい学校づくりのために実施している教育活動やその他学校運営に関することについて評価し、その結果に基づき改善策を工夫し、学校教育の一層の充実を図るために行われるものである。

### 2 今までの評価活動とこれからの評価活動

#### (1) 今までの評価の課題

今までも学校では、教育目標の具現を目指して学校運営や自校の教育活動について評価を行い、次年度に向けて改善がなされてきたが、次のような課題が一部に指摘されている。

- 評価項目が多く網羅的で、評価方法・形式にマンネリ化の傾向がみられる。
- 評価者が教職員に限られていて客観性に欠ける。
- 評価結果が十分改善に生かされていない面がある。
- 学校と家庭、地域社会との連携の必要性が強調されているにもかかわらず、結果が保護者や地域の人々などに公表・説明されていない。

## (2) これからの評価

学校自己評価は、よりよい学校づくりのため、教育活動や学校運営について評価し、確実に改善につながるものでなければならない。

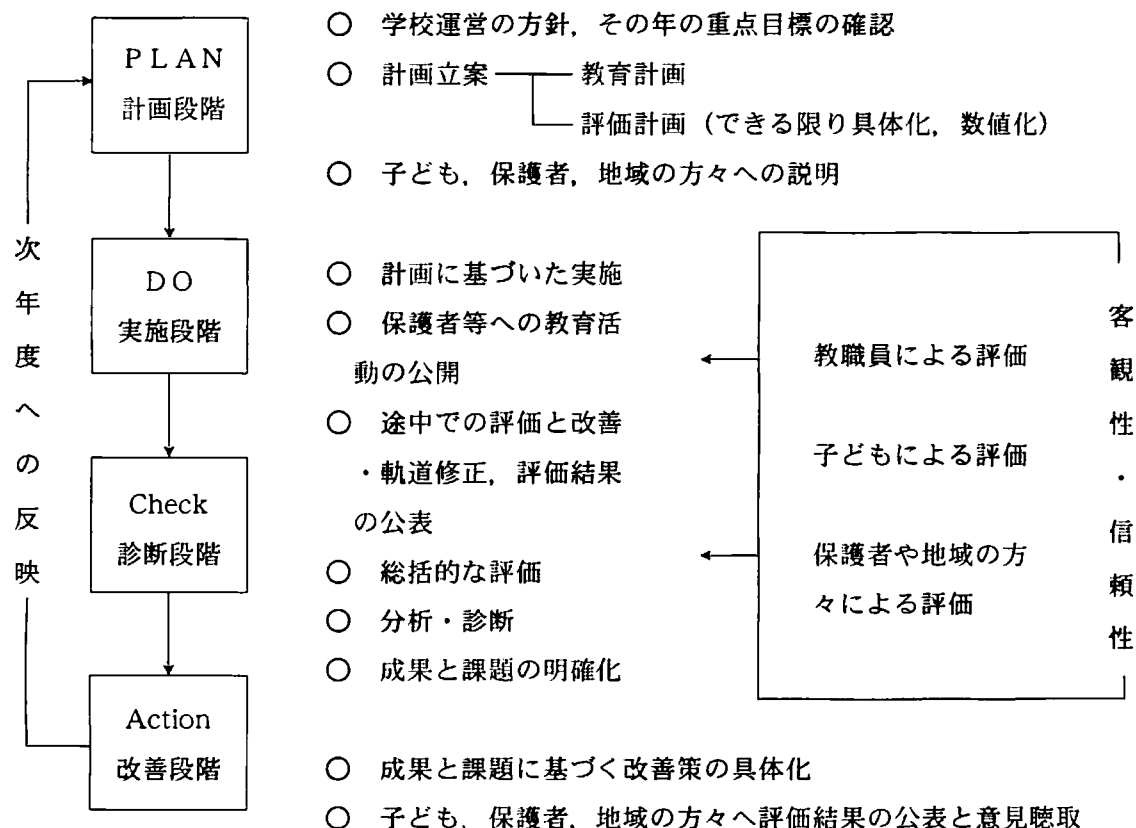
そこでこれからの学校自己評価は、今までの評価の課題を踏まえ、次のような工夫をしたい。

- 学校の教育目標の達成を目指し、その年度の重点目標に焦点を当てた評価内容にする。
- 教職員による評価を基本としながらも、評価の客観性、信頼性を高めるため保護者や地域の方々などによる外部評価を導入する。
- 評価の時期については年度末に限らず、学期ごとあるいは内容によっては年間を通して実施する。
- 保護者や地域の方々に評価結果を公表するとともに、その結果について意見聴取する。

## 3 学校自己評価の進め方

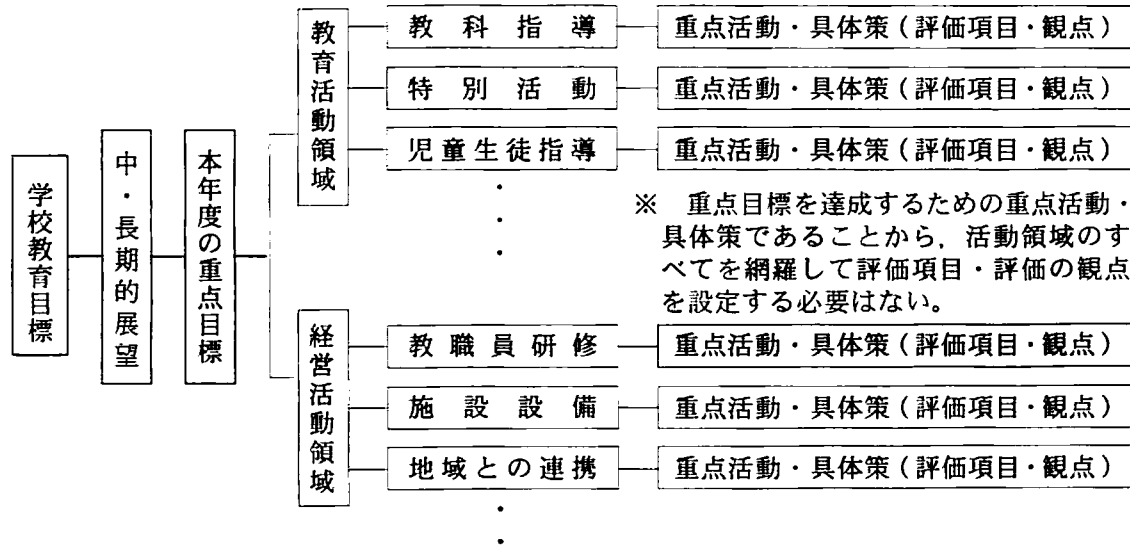
### (1) 学校自己評価の流れ

教育活動を計画し、それを実施する。実施したことを診断し、その診断をもとに計画を改善していくというこの一連の流れの例を以下に図で示す。

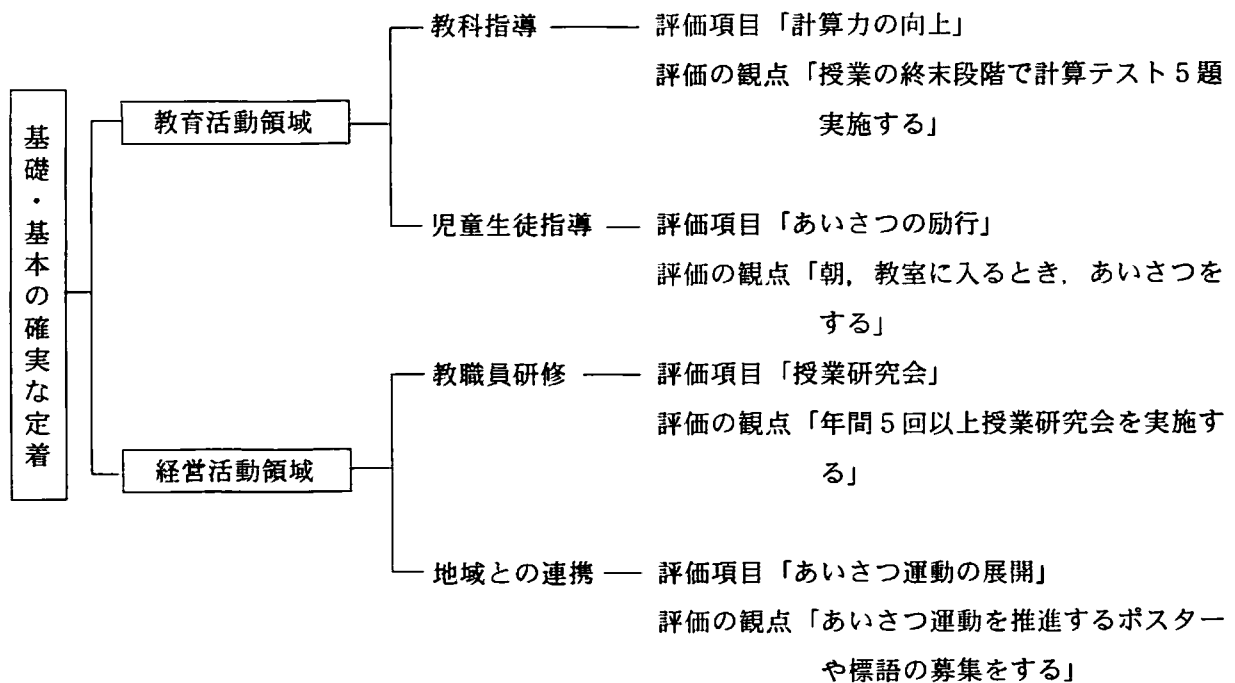


(2) 評価内容を重点化した評価計画作成の手順

学校の教育活動は、児童生徒に直接かかわる活動（教育活動領域）とそれを支える活動（経営活動領域）とに大別してとらえることができる。教育活動領域では、教科指導や特別活動、生徒指導等を対象とし、また経営活動領域では校務分掌組織、地域との連携、施設設備等を対象としている。それぞれの対象ごとに校長のリーダーシップのもと学校の将来を見通し、中・長期的展望に立って設定された本年度の重点目標に対応する具体化した重点活動や手立てを定める。その活動や手立てを踏まえて評価項目や評価の観点を設定し、評価の時期や評価者も位置づけた評価計画を作成していく。



(例) 本年度の重点目標が「基礎・基本の確実な定着を図る」という場合



※ 評価の観点はできるだけ具体的な表記としたい。また可能なものについては、目標を数値化するとわかりやすく、的確な評価が得られる場合がある。

### (3) 外部評価

外部評価は、学校で行う教育活動や学校運営に対して保護者や地域の方々などから評価してもらい、その結果を公表して意見を聴取し、学校の自己評価に生かすことである。このことにより、評価の客観性、信頼性を高め、学校、家庭、地域社会が共に力をあわせてよりよい学校をつくろうとすることにつながる。

このようなことから外部評価は、学校や地域とともに学校づくりを進めるために欠かすことのできないものであるが、学校の自己評価を補い、支えるものであることをおさえておく必要がある。

#### ア 外部評価の実施方法

##### ○ 「何について」

学校の教育活動や学校運営の中から、特に本年度の重点活動を中心に、外部評価を行うことにより改善に生かせると考えられる項目について取り上げる。

##### ○ 「だれに」

保護者、地域の方々、学校評議員などの中からだれに依頼すれば、よりの確な評価が行われるかを考え決定する。

##### ○ 「いつ」

運動会や学習発表会などの行事の機会や授業参観等、評価項目によって場面を決めたり、年間、あるいは学期末、年度末など時期を決めたりする。

##### ○ 「どうやって」

評価項目について、アンケート調査、聞き取り調査などふさわしい方法を考える。

#### イ 留意点

○ 事前に本年度の重点目標や重点とする主な教育活動・具体策について説明しておく。

○ わかりやすい設問となるよう心がけ、設問数もできるだけ少なくする。

○ 外部評価者からの意見に対しては、できるだけ早く対応する。

### (4) 授業評価

学校自己評価のねらいは、よりよい学校をつくることにある。学校における様々な教育活動の基盤は学級であり、特に子どもたちにとって一日の大半を過ごす学級における授業こそ、学校教育の中核となるものである。したがってその中核となる授業を評価し改善していくことは、我々教師の使命であり最重要課題である。学校改革は、教室からの授業改革から始まるといっても過言ではないと考える。

#### ア 授業評価の実施方法

##### ○ 「何について」

教材選択、導入の工夫、指導過程の工夫、個に応じた指導の工夫、板書や発問の工夫、評価の工夫など

##### ○ 「だれが」

授業者が      学習者が      参観者が

##### ○ 「いつ」

1単位時間ごとに      単元ごとに      学期ごとに      年間      その他

##### ○ 「どういう機会に」

校内研修で 日常の授業で 授業参観の日に その他

○ 「どうやって」

評価表を使って 協議を通して その他

(5) 子どもによる授業評価

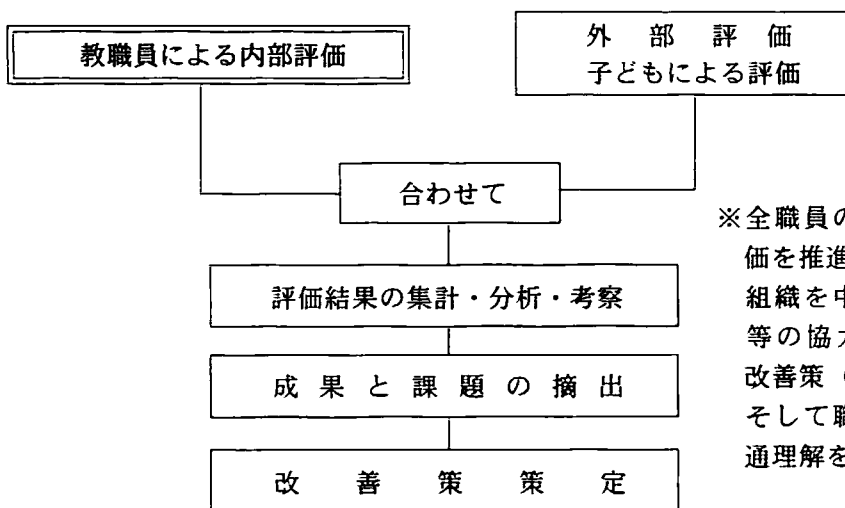
わかる授業を実現するためには日々の授業改善が欠かせない。そこで、子どもが授業をどう評価しているか教師の手立てについてだけ評価するのではなく、子どもの自己評価とを組み合わせを行い、明日の授業改善に役立てていく。

実施に当たっては、授業評価の趣旨を十分子どもに理解させた上で行う。また子どもによる評価は各教科等の授業だけでなく、学校行事あるいは学校生活に関するものなども考えられる。

(6) 評価結果の生かし方

評価結果を集計・分析・考察し、教育活動の成果と課題を明らかにして教育計画見直し・策定の基礎資料とする。

成果がみられた項目についてはその要因を明らかにし、また不十分な項目についてはその要因・背景を考察し改善策を考えていく。



※全職員の共通理解のもとに学校自己評価を推進する  
組織を中心に、各学年、校務分掌担当等の協力のもと成果と課題を考察し、改善策（案）を策定していく。  
そして職員会議等で全職員で協議し共通理解を十分に図ることが大切である。

(7) 評価結果の公表の在り方

学校が説明責任と結果責任を果たし、自主性・自律性を高めていくためにも、評価結果を公表・説明し、それについて保護者や地域の方々から意見を聴取することが大切である。このことは、開かれた学校づくりを推進し、学校教育に対する保護者や地域の方々の信頼を高め、学校が家庭や地域社会と力をあわせて、地域全体で子どもを支えていくことにつながっていく。

公表に当たっては、どんな内容を、だれに、いつ、どういう方法で公表するか検討する必要がある。その際、個人情報の扱いについては十分気をつける。

(例)

○ 子どもに対して

年間のがんばりや成果を次年度の目標につながるように、学級活動や学年集会あるいは通知表を渡すときなどに説明する。

○ 保護者や地域の方々、学校評議員に対して

年度当初に説明したことがどうなったか，成果と課題について評価の集計結果や改善策などをまじえてホームページ，学年・学級懇談会，学校・学年だよりなどで公表する。

特に学校評議員については，児童生徒の変容について個別に伝えたり，文書等で公表する。なかでも専門的立場から個別に意見を聴取したことについては個別に伝えたい。

# V 研究の実際

## 1 小俣小学校の基本的な考え方

### (1) 実態と教育構想

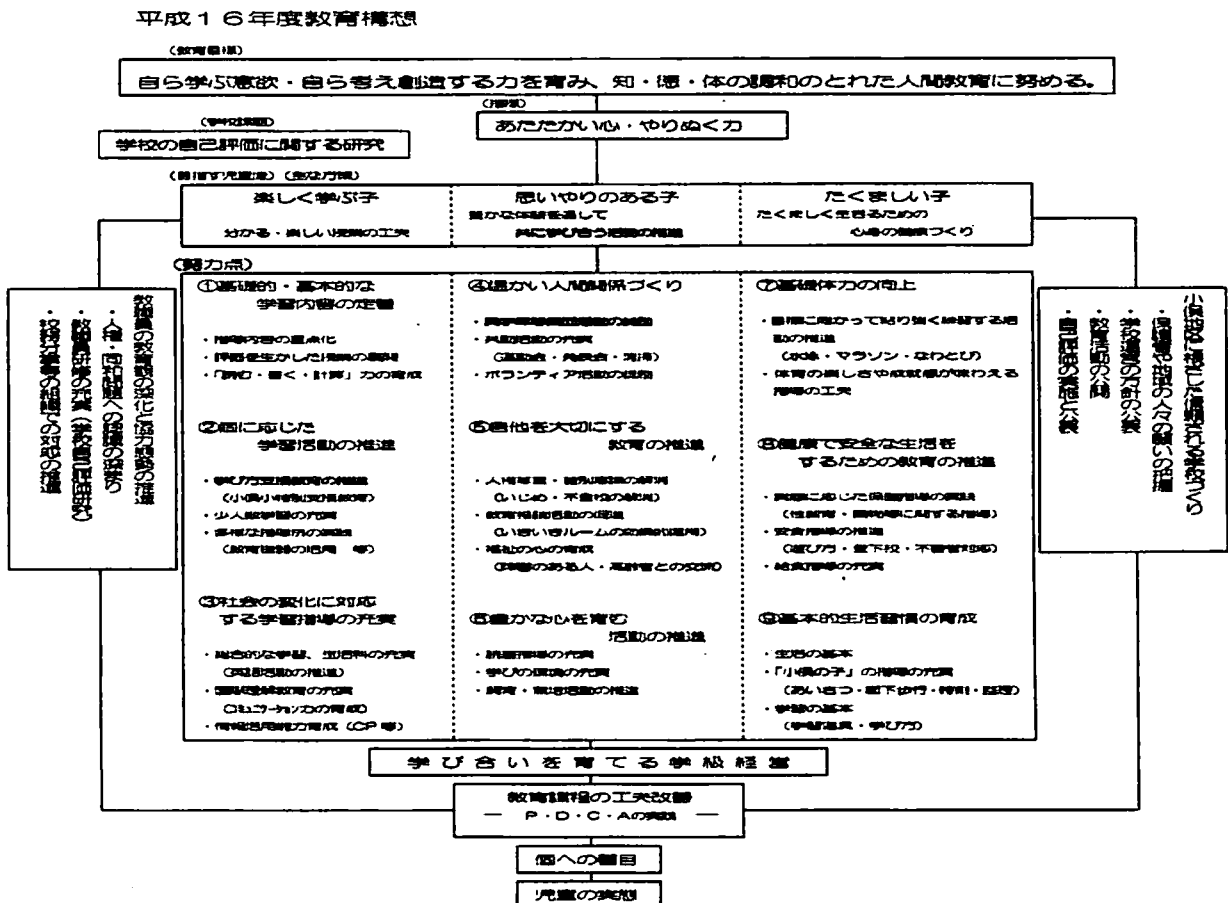
小俣小学校は、北には足尾山系に連なる石尊山等の山々、南には渡良瀬川が流れる豊かな自然に囲まれている。明治6年の開校に当たっては地域の人々が私財を投じて学校を建設した歴史があり、その創学の志は本校の伝統となって根付いている。

現在に至っては、平成9年4月に小俣第二小学校と統合し、新小俣小学校が誕生した。このことに伴い、児童養護施設から通学する児童も在籍するようになり、今まで以上に子どもにとって安心できる家庭的なかかわりの中で、一人ひとりが大切にされ自他を思いやる教育の展開が求められている。

これらのことから小俣小学校の子どもたちに「基礎的・基本的な学力」を身に付けさせたり、「心の教育の推進」や「基本的な生活習慣の育成」を図ったりすることは、本校の大きな課題となってきている。

このような課題を踏まえて、本校の目指す子ども像に「楽しく学ぶ子、思いやりのある子、たくましい子」を設定し、指標に「あたたかい心、やり抜く力」を掲げ、下記の教育構想のもとに全ての教職員が力を合わせて本校教育の充実のために取り組んでいるところである。

平成16年度の教育構想は次に示した通りである。





## (2) 学校経営概要

### ア 学校教育目標

自ら学ぶ意欲・自ら考え創造する力を育み、知・徳・体の調和のとれた人間教育に努める。

【指 標】 あたたかい心・やりぬく力

【目指す児童像】

- 楽しく学ぶ子
- 思いやりのある子
- たくましい子

(のばしたいよさ)

・ 明るさ・素直さ・思いやり・まじめさ

(つけない力)

- ・ 基本的な生活習慣 (あいさつ・時間遵守・整理整頓・廊下歩行)
- ・ 礼儀 (言葉づかい)
- ・ 判断力 (きまりを守る)
- ・ コミュニケーション力 (聞く・話す)
- ・ ねばり強さ (目当てに向かってやり通す)

### イ 学校経営の方針

- 創学の志と130年の伝統を継承し、教師や子どもたち一人一人の思いやよさ・可能性・持ち味を発揮し、互いに協力し合い助け合う学校を目指す。
- 全教育活動を総体にとらえ、ゆとりと潤いのある学校運営を図る。
- 小俣地区に根ざした学校として、地域の実態に即した創意工夫ある教育課程の編成に努める。
- 経営の重点に評価が見える(生きる)学校経営とし、15年度の学校自己評価を生かした「平成16年度 小俣小の教育」をもとに一貫した教育活動の実践、充実に努める。

### ウ 集団で学び合う学校・学級を目指して

- 子どもの声(あいさつ・歌声)を響かせる。

充実と感動の実感

- 目標をもち、目標に向かって学び合う。

自主性と自立性の尊重

- 互いのよさや可能性を大切にする。

「和と信頼」を基本に

- どの子にも居場所を保障する。
- 情操豊かな環境と規律ある学校生活

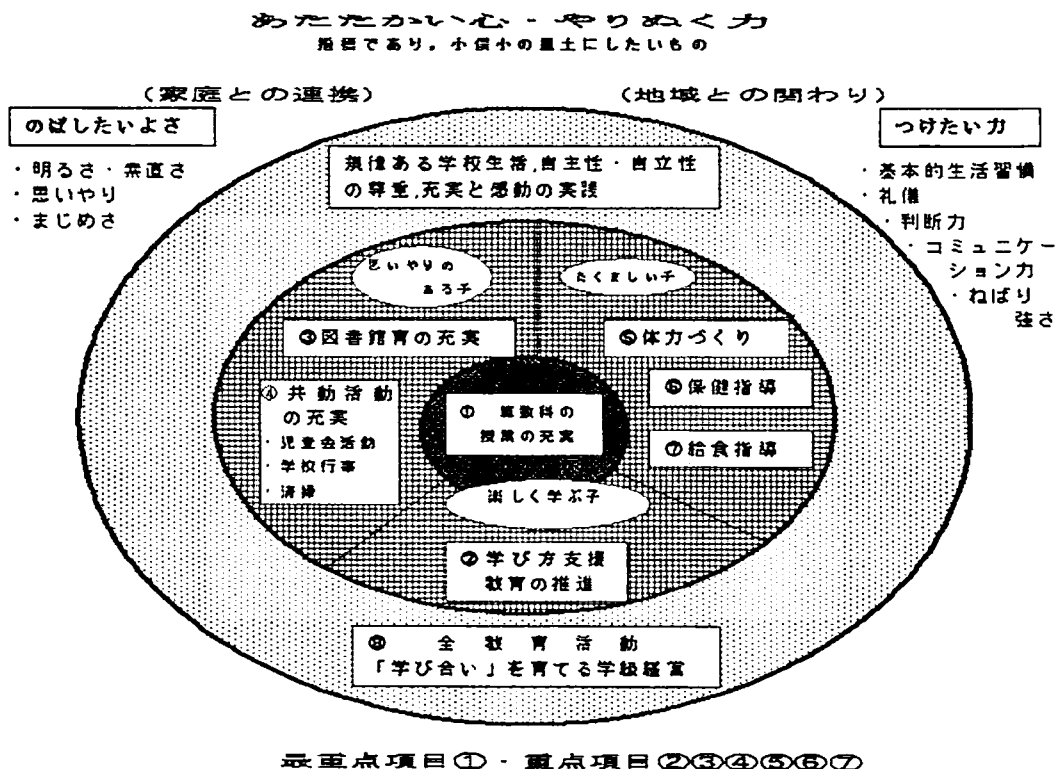
### エ こういう教師でありつづけたい

- プロの意識をもち、健康で人間性豊かな教師  
授業は教師の命、研修がこれを支える

- 子どもと共に学び、遊び、働き、子どもの成長を喜べる教師  
子どもを認め、尊重する（ならぬものはならぬの基本はおさえる）
- 子どもや保護者の思いをしっかり受け止め、共感できる教師  
「学びのゆとり」「学びの保障」を目指し、基礎的・基本的な学習  
内容の定着と基本的な生活習慣の育成を目指す

(3) 学校経営の重点

- ア 全教育活動の基盤に「学び合いを育てる学級経営」を置き、どの子にも伸び伸びと過ごせる学校・分かりやすい授業と安心して力を発揮する学級・すべての学校生活を通して一人の人間として大切にされ「存在感・自己実現」の喜びを味わうことができるような学校生活を実現する。
- イ 算数科における「楽しく学ぶ子」の育成を中心に据えた学校自己評価に取り組むことを学校課題とし、指導と評価が一体となる教育活動の実践を積む。
- ウ 教職員が把握した児童の実態から、「伸ばしたいよさ」「つけたい力」を全教育活動で育成する「児童の生きる力」とし、学習指導や児童指導の充実を図る。
- エ 多様な教師の考えが一人の子どもの中で統合されるために、マネジメントサイクルによる「学校の生きる力」の育成に励む。
  - P 計画・・・創発（考える側の統合）
  - D 実践・・・共同（教師の一貫した姿勢・一人一人の力の噛み合わせ）
  - C 評価・・・考究（共通の価値観・相互の考えを照合）
  - A 動き・・・次の一手（評価結果を次に反映させる）
- オ 最重点項目・重点項目を明確にし、経営の重点化を図る。（下図）



(4) 学校自己評価の推進

これまで「教育構想」を踏まえて「経営の概要」「経営の重点」を示してきたが、これらを基に教育活動を充実させていくためには、教職員が常に子どもの姿を客観的に捉え、目指す目標と具体策を共通理解し、力を合わせて教育活動を展開していく必要がある。

さらに、保護者や地域の人々等に教育活動を公開したり説明したりして、本校の教育を理解していただき、外部の方々に信頼と協力を得ることが不可欠である。

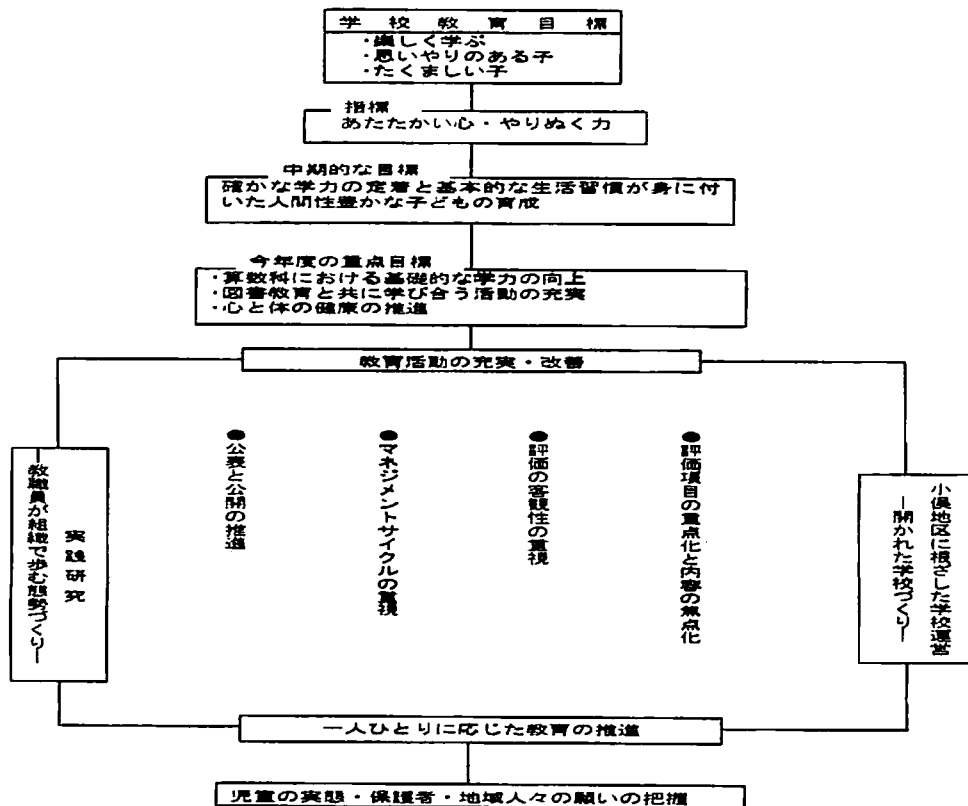
このような学校づくりの推進には、先に教育研究所から示された学校自己評価の基本的な考え方を踏まえて取り組んでいくことが極めて有効であると考えます。

本校においても、これまで学校自己評価は毎年実施されてきたが、形骸化され「評価のための評価」となりつつあったことが反省としてあげられる。このことから、小俣小学校の学校自己評価の推進に当たっては、下記のことを留意したいと考えた。

- ・ 児童の実態等から本年度改善しなければならない目標を重点化し、評価の内容や方法を具体的に定める。
- ・ 学校自己評価の客観性と本校教育の理解を図るために、外部評価を重視する。
- ・ 学校教育の改善のための学校評価であることから「マネジメントサイクル」を重視する。
- ・ 保護者や地域の人々の理解と信頼を得るために「公表や公開」を推進する。

これらの留意点を踏まえて、学校自己評価を実施し、本校教育の改善と充実を図ることにした。以下に、本校の学校自己評価の推進構想を示す。

平成16年度学校自己評価の推進構想



(5) 学校自己評価全体計画

これまで、子どもたちの実態等を踏まえて重点的に改善していかなければならない項目について述べてきた。しかし、学校自己評価は全ての教育活動が対象となる。

そこで、全教育活動の学校自己評価を計画的に実施し、改善の手立てとするために下記のような「主な学校自己評価全体計画表」を作成し全職員で共通理解を図りながら、実践していくことにした。

平成16年度 主な学校自己評価全体計画表

重点項目	評価内容		評価者					評価の時期と改善計画				備考		
			内部		外部			学期末	10月	2月	その他			
	評価項目	行事・集会	校長	教職員	保護者	評議員	児童							
学校運営		教育目標		●										
		校務分掌組織		●										
		現職研修		●										
	①	学習指導の充実												
		授業参観	1学期(道徳)		●	●	●						○	
		研究授業等			●	●	●						○	
		年間行事調整			●								○	
		夏季休業中の研修			●								○	
教育課程		学年・学級経営の充実	●	●				○					※月末日に評価と次年度改善計画	
		学校予算		●						○				
		日課表		●					○					
		授業時数	●	●					○					
学習指導		朝学習		●					○					
		学習指導全体計画	●							○				
	①	少人数指導	●	●									○	
		読む・書く力の育成	●	●									○	
	①	計算力の育成	●	●									○	
		道徳教育	●								○			
		特別活動	●								○			
		学級活動	●	●							○			
		児童会	●								○			
	④		なかよしタイム	●	●						○			
			お迎え集会	●									○	
			児童総会	●									○	
	④		児童集会	●	●								○	
			感謝の集い	●									○	
			お別れ集会	●									○	
		クラブ活動		●					○					
		学校行事	入学式		●								○	
			卒業式		●								○	
	④	学芸的行事	小侯っ子発表会	●			●						○	外部評価 3年に1度
		体育的行事		●							○			
	④		運動会	●	●	●	●						○	外部評価 3年に1度
	⑤		水泳検定	●									○	
	⑤		小侯っ子マラソン	●	●	●							○	外部評価 3年に1度
			縄跳び大会	●									○	
		遠足・宿泊的行事	遠足	●									○	
			集団宿泊的行事	●									○	
		勤労・奉仕的行事	一人一鉢栽培	●							○			
			落ち葉掃き	●									○	
		部活動		●							○			
		総合的な学習の時間		●							○			
		英語活動	●							○				
②	学び方支援教育		●							○				
	人権教育		●							○				
	情報教育		●							○				
③	図書館教育		●							○				
	環境教育		●							○				
	国際理解教育		●							○				
	福祉教育		●							○				
	児童指導全体計画		●							○				
児童指導		小侯の子	●	●		●		○						
		教育相談	●						○					
		いきいきサポート	●							○				
		交通安全教育	●								○			
		安全指導	●									○		
	⑥	保健指導	●							○				
	⑦	給食指導	●								○			
	④	清掃指導	●									○		
	飼育栽培指導	●									○			

## 2 学校自己評価の実際

### (1) 最重点項目「算数科の授業の充実」

#### ア 少人数指導の充実を目指して

本校では、平成14年度より少人数指導を算数の授業の中に取り入れ、個に応じた指導を展開してきた。子どもたちの実態を最大限にとらえ、教師の指導体制を整え、下学年では主にT・Tを柱にした指導、上学年ではコース別学習を柱にした少人数指導を行い、日々授業に取り組んでいる。

少人数指導は、子どもたちにとって自分にあった学習進度で学ぶことができるため、自分のペースで安心して学習に取り組むことができた。教師にとっても一人一人の子どもに目が届きやすく、きめ細かな対応ができることなどのよさがある。

日々の授業の改善は、子どもたちの力を伸ばす最大の方策である。今後、さらに授業を充実させるために、「学校自己評価」の趣旨を踏まえ、授業の中で自己評価（内部評価・外部評価）を取り入れ授業の改善のために活用することにした。

実践に当たっては、算数科における少人数指導の充実を目指して子どもの事前・事中・事後の実態を把握し、それぞれの場面で課題を見つけ、課題解決のための指導法の工夫や改善・見直しを行っていくことにした。さらに、個に応じた指導の充実のために習熟の程度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習活動を取り入れた指導の工夫や少人数による学習形態及び指導方法の工夫・改善を積み重ねていくことにした。また、授業を公開し、教職員による内部評価だけでなく、保護者や学校評議員による外部評価も実施し、外部の方々の声に積極的に耳を傾け、改善すべき点を速やかに改善し、授業の質を高め、教師自らの意識の改革につなげていくこととした。

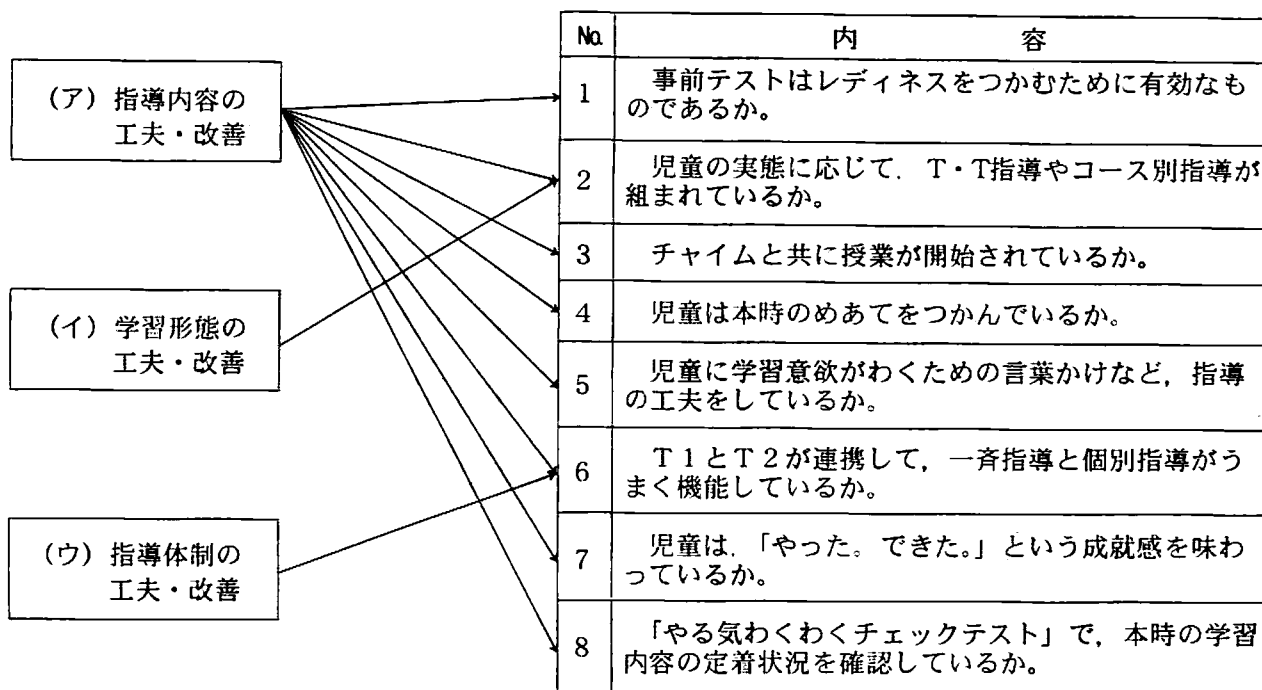
#### イ 少人数指導の充実を目指した3観点による内部評価

少人数指導の充実のために、授業で重要と思われる「指導内容の工夫・改善、学習形態の工夫・改善、指導体制の工夫・改善」という3つの観点から授業の見直しを図ることとした。

この3つの観点から設定した評価項目をもとに、評価カードを作成して、授業の評価を実施することにより授業の改善を図り、子どもたちの学力を伸ばそうと考えた。

内部評価カードの作成に当たっては、評価項目に3つの観点がかかわるよう工夫して作成した。具体的には図1のような関連を図った。(ア)の「指導内容の工夫・改善」に関しては1から8の項目と関連させ、(イ)の「学習形態の工夫・改善」に関しては2の項目と関連させ、(ウ)の「指導体制の工夫・改善」に関しては6の項目と関連させるというように、(ア)・(イ)・(ウ)の3つの項目が網羅されるよう、評価項目を作成した。

3つの観点と評価項目との関連（2年）



ウ 内部評価カードの工夫・改善

内部評価の実施に当たっては、各学年全学級で研究授業を通して行うこととした。実施の経過については次の通りである。

期 日	内 容	評 価			
		内 部	外 部		
			児 童	保 護 者	そ の 他
6 / 18	・ 2年研究授業	○	○		
6 / 30	・ 6年研究授業、授業参観	○	○	○	○
10 / 8	・ 3年研究授業	○	○		
10 / 28	・ 5年研究授業、授業参観	○	○	○	○
11 / 25	・ 4年公開研究授業	○	○		○
2 / 4	・ 1年研究授業	○	○		

内部評価は本校職員とし、外部評価を子ども・保護者・その他（学校評議員・他校教職員）とした。

評価は授業中実施し、授業後評価カードを回収し集計した。そして、その後の授業研究会や学年会で成果や課題を確認し自らの授業の改善に生かした。さらにその改善策を次回の研究授業を実践する学年に引き継ぎ、学校全体の授業の改善につなげていこうと考えた。下の図は、授業の改善を図るために評価項目の内容をどう改善していったか示したものである。2年から6年へ、6年から3年へ、3年から5年へ、5年から4年へと評価項目の内容が微妙に変化している。

2年		6年		6年		6年	
内容		内容		内容		内容	
1	事前テストの内容は、レディネスをつかむために有効なものであるか。	事前テストを活用してレディネスをつかみ、単元を通して児童の実態に応じた学習形態を工夫しているか。	事前テストはその結果を効果的に生かせるものであったか。	事前テストは児童の実態を把握しやすいように工夫されているか。			
2	児童の実態に応じて、T・T指導やコース別指導が組まれているか。	児童の実態に応じた学習形態を工夫しているか。	児童の実態に応じた学習形態を工夫しているか。	児童の実態に応じた学習形態を工夫しているか。			
3	チャイムとともに授業が開始されているか。	児童の質問に答えたりつまずきを察知したりして、その子に応じた支援や指導に努めているか。	児童が学習問題をつかみやすい工夫をしているか。	児童が学習問題をつかみやすい工夫をしているか。			
4	児童は本時のめあてをつかんでいるか。	児童は、「やった、できた。」という成就感を味わっているか。	児童の質問に答えたりつまずきを察知したりして、その子に応じた支援や指導に努めているか。	個別支援計画を生かしながら、その子に応じた支援や指導に努めているか。			
5	児童に学習意欲がわくための言葉かけなど、指導の工夫をしているか。	児童は、『やる気わくわくチェックテスト』で、本時の学習内容の定着状況を確認しているか。	学び合いの場が適切に設けられ、機能しているか。	学び合いの場が適切に設けられ、機能しているか。			
6	T1とT2が連携して、一斉指導と個別指導がうまく機能しているか。		児童は、「やった、できた。」という成就感を味わっているか。	児童は、楽しく学んでいたか。			
7	児童は、「やった、できた。」という成就感を味わっているか。		児童は、『やる気わくわくチェックテスト』で、本時の学習内容の定着状況を確認しているか。	児童は、『やる気わくわくチェックテスト』で、本時の学習内容の定着状況を確認しているか。			
8	『やる気わくわくチェックテスト』で、本時の学習内容の定着状況を確認しているか。						

例えば、6年の授業では「児童同士で多様な考えを話し合ったりすり合わせたりする場面があるとよかった」という反省があげられ、次の3年では評価項目に「学び合いの場」の設定についての項目が入るというように、評価項目の内容の改善を通して授業の質も高めていこうと考えた。また、3年では「児童の実態把握のための事前テストに改善の余地があるだろう」という反省のもと、5年の授業では「事前テストは児童の実態を把握しやすいように工夫されているか」という内容に変更したり、コース別+T・Tの授業ということで個別支援計画に基づいた「学び方支援」の内容を評価項目に取り入れたりした。

このように、内部評価を授業の改善の方策の一つと位置づけ、全職員による内部評価の実施を試みた。

## エ 外部評価の導入と授業の改善

本校では、内部評価とともに外部評価も取り入れ実施している。外部評価の導入により、子どもたちには授業内容の定着度や「分かりやすい授業であったか」などの振り返りを促し、保護者やその他の参観者には、授業に関する率直な意見や要望を聞きより質の高い授業への改善につなげていくことにした。さらに、本校で取り組んでいる少人数指導への理解と啓発を図ろうと考えたのである。

保護者及びその他の参観者には、教師の発問や授業内容にかかわること、子どもの様子、学習環境などについて評価をしていただいた。外部評価を授業に導入したことによって、保護者の意識も変わり真剣に授業を参観する姿が多く見られるようになった。

子どもによる外部評価では、毎時間の算数の授業を振り返り、「分かった。できた。」ことを確認させることで、自信につなげることができた。また、躓いている子どもには、どこで何が分からなかったのが明確になり、復習に役立てることができた。その結果は、授業後に担当の教師が目を通し、子どもたちの学習内容の定着度の把握や意欲的に学習に取り組んでいるかなどの評価として活用した。子どもによる評価は、授業・単元・学期終了ごとに、知識・技能から意欲等にかかわる内容について幅広く実施している。

オ 成果と課題

授業の改善と充実をめざして内部評価と外部評価を取り入れ実践してきたことによって、次のような成果と課題が明らかになってきた。

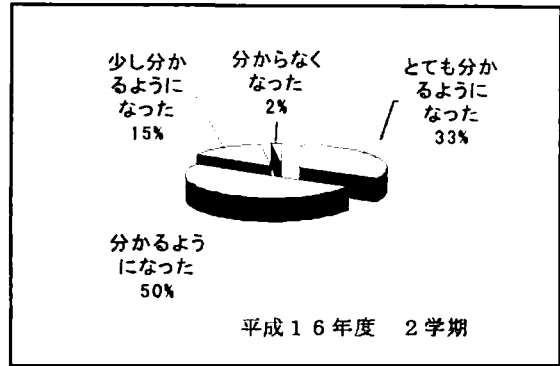
(1) 成果

① 算数科の学習に意欲的に取り組む子どもの増加

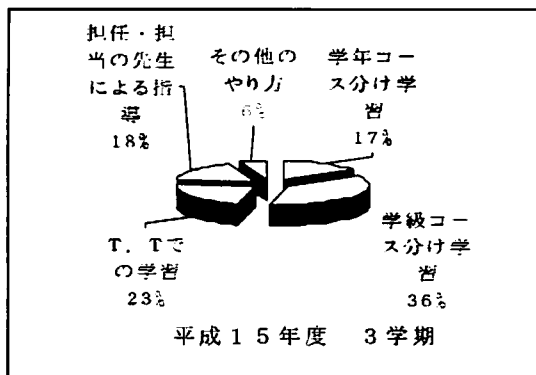
右のグラフ1は本年度2学期に実施した算数に対する子どもたちの意識調査の結果であるが、算数に対して「少し分かるようになった」を含めると、98%の子どもが、「分かる」ということを実感できるようになったことがうかがわれる。

また、下のグラフ2とグラフ3は好きな学び方について、昨年度末の結果と本年度の結果を比較したものである。

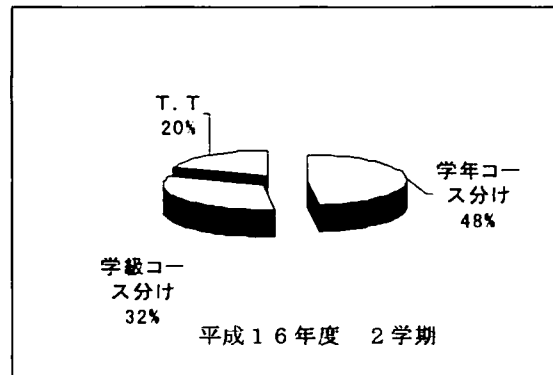
<グラフ1>



<グラフ2>



<グラフ3>



この結果から学年や学級での「コース別学習」が好きと回答した割合が昨年度と比較して30ポイント以上も上がり、子どもたちが「コース別学習」に興味や関心をもって取り組んできていることが分かる。つまり、内部・外部評価を取り入れて授業改善を繰り返し行ってきたことによって「コース別学習」が充実し、算数が「分かる」ということを実感してきた子どもが増えてきていることがうかがえる。

② 教職員一人一人に、授業を改善していこうという意識の高揚

その背景には、本年度の現職研修の研究主題を算数科における「楽しく学ぶ子」の育成と位置付け、授業における学校自己評価をくりかえして実施し児童の実態をふまえた研究の推進や研究体制づくりを整えたことがあげられる。

このことで教職員がチームで行う少人数指導も充実してきている。

③ 算数科における少人数指導や習熟の程度に応じたコース別学習についての保護者の理解の推進

外部評価より授業後の保護者の声に「コース別学習は各クラスごとに特徴のある教え方、授業の進め方で特色があり面白く、それぞれ子どもたちの要求にあった進め方をしていることが分かりました。受け身ではなく積極的に授業に取り組んでいる様子がうかがわれました。」と言うような感想が多く寄



せられた。保護者からも少人数指導の推進の要望と期待が高まっている事がうかがわれた。

## (2) 課題

### ① 内部評価の方法と内容の改善

コース別学習では複数のコースを一枚の評価カードで評価するのに無理がある。評価者が参観したコースだけの評価になったり全体が把握できなかつたりすることもあった。今後、コースごとの評価カードを用意したり、コースごとに評価の内容も変化させたりするなどの工夫や改善が必要である。

### ② 評価結果の公表の時期と方法

学校だよりなどで、部分的には子どもの学習状況等を公表しているが、継続的かつ効果的に実施していくためには今後さらに検討していかななくてはならない。

### ③ きめ細かな少人数指導を推進していく上での指導体制の充実

本校は独自の「少人数担当・学校支援指導員・学びの指導員指導時間割表」を作成し、少人数指導における指導体制の充実を図っているが、まれに、行事や教師の都合による日課の変更などで、時間割通りに対応できず、計画的な少人数指導やコース別学習が展開できない問題点が指摘されている。このように今後改善の余地のある課題も山積している。

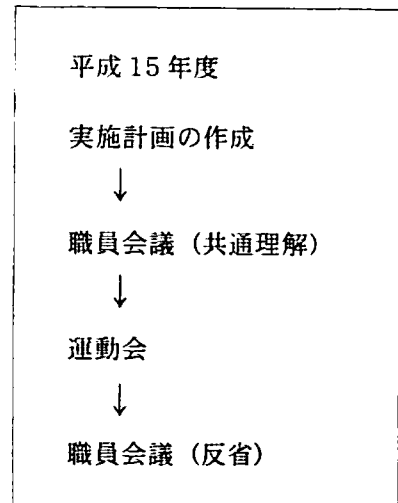
本校では学校自己評価の趣旨を踏まえ、外部・内部評価を取り入れた授業の改善を図ってきた。常日頃、評価する側であった教師が教師の命であるとも言われる授業を評価し合うことは、評価する側もされる側も互いに厳しいことである。しかし、厳しさを乗り越えたとき初めて教師の変容が図られ、開かれた学級・学年・学校に生まれ変わることができることを確信している。これらの成果と課題を真摯に受け止め、学校自己評価をさらに継続して授業の改善に全校体制で取り組んでいきたい。

(2) 重点項目「運動会」について

ア 計画から実践までの流れ

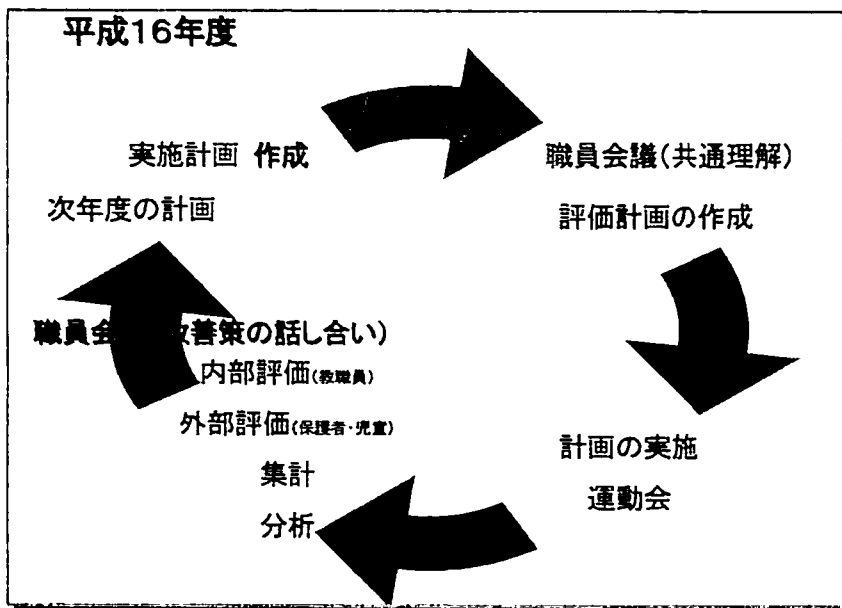
(ア) 平成15年度までの流れ

昨年度までの運動会の計画から実践までの流れでは、右図に示すとおり、サイクルとしての取り組みがなされていなかった。運動会の前後に職員会議が実施されていたが、運動会前の職員会議においては日程や役割分担等の具体的な事柄についての共通理解が主な内容だった。また、運動会後の職員会議では話題の中心はそれぞれの係の反省にとどまるものであった。運動会を実施するにあたって、具体的な方法の改善は行われていたが、運動会の目標をふまえ、運動会までの取り組み全体を見通しての話し合い、改善までは十分に行うことができなかったのである。



(イ) 平成16年度の取り組み

今年度は、これまでの反省を踏まえて、マネジメントサイクル（P-D-C-Aサイクル）を重視して、運動会を実施することにした。



マネジメントサイクルをつくる上で取り入れたことの一つめは、評価計画の作成である。教職員による内部評価と保護者・子どもによる外部評価について、それぞれの評価項目・方法について検討を行った。

運動会前の職員会議では、実施計画の共通理解を行った。これまでの日程や役割分担等の具体的な事柄に加え、運動会の目標評価項目・方法についても話し合い、取り組みへの共通理解がより深く図れた

ように思う。

運動会後の職員会議では、評価計画に基づく評価の結果を集計・分析し導き出された改善策を話し合うことができた。これは、これまでの取り組みでは行えなかったことである。職員会議での改善策の話し合いが、次年度の計画に結びつき、マネジメントサイクルとしての機能が動きはじめることができた。

イ 内部評価・外部評価の実施

(ア) 評価の内容

評価は教職員による内部評価と保護者・児童による外部評価に分け、それぞれにアンケート用紙を配布して記入をしてもらった。アンケート用紙は、内部評価（教職員用）、外部評価（保護者用・児童用）の3種類を作成した。児童用についてはさらに、低・中・高学年用に分かれている。

評価は、子どもの姿を通して、運動会の目標が達成されたかどうかを明らかにすることに重点をおいて評価項目を作成した。

学校自己評価			
	評価	対象者	
<input type="radio"/>	内部評価	<input type="radio"/>	職員
<input type="radio"/>	外部評価	<input type="radio"/>	児童
		<input type="radio"/>	保護者
		<input type="radio"/>	評議員
			参観者
		開催日	全職員
		回収日	秋季大運動会
			16. 10. 02
<p><b>1 アンケートで明らかにしたいこと</b></p> <p>(1) 継続していききたいこと(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○クラスや学年を越えて、互いに教え合ったり、励まし合ったりしながら練習や準備に取り組み、仲間意識を高める。(思いやりのある子)・重点項目</li> <li>○地域や保護者の方々とのふれ合いを通して、豊かな人間性を培う。(思いやりのある子)</li> <li>○児童の健康や安全への配慮がなされている。(健康・安全)</li> </ul> <p>(2) 検討したいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日曜日の開催について</li> <li>○実施時期について</li> <li>○等賞カードについて</li> <li>○種目について</li> <li>○係の仕事について</li> </ul>			

アンケートで明らかにしたいことの、(1) 継続していききたいことは、運動会の目標とした。

評価内容		
内部(教職員)	外部(保護者)	外部(児童)
1. 児童は、競技種目に一生懸命に取り組んでいましたか。	1. 運動会にみんなで楽しく参加することができましたか。	1. あなたは、運動会に楽しく取り組むことができましたか。
2. 児童は、友達を応援したり、力を合わせて団体種目に取り組んでいましたか。	2. お子さんは、競技種目に一生懸命に取り組んでいましたか。	2. あなたは、種目に一生懸命に取り組みましたか。
3. 五人ふたし、八木原・PVA種目などで、子どもたちと保護者や地域の人のふれ合いがみられましたか。	3. お子さんは、友達を応援したり、力を合わせて団体種目に取り組んでいましたか。	3. あなたは、友達を応援したり、力を合わせて団体種目に取り組みましたか。
4. 健康・安全に対する配慮がなされていたと思いますか。	4. 五人ふたし、八木原・PVA種目などで、子どもたちと保護者や地域の人のふれ合いがみられましたか。	4. お家の人や地域のひとと、楽しく八木原を遊んだり、競技を応援したりしましたか。
5. 来年度からは運動会を土曜日に行いたいと思いますが、いかがですか。	5. 健康・安全に対する配慮がなされていたか。	5. 安全に気をつけて運動会に参加することができましたか。
6. 来年度からは運動会を青少年期(第3週目)に行いたいと思いますが、いかがですか。		6. 児童学年がよければ、下級生と力を合わせて楽しくつなひができましたか。
7. 今年の等賞カードはよかったですか。		7. あなたは、係の仕事最後まできちんとやることができましたか。
8. 各学年種目・全校種目は児童の関心が反映されたものとなりましたか。		
9. 係の仕事内容・人数は適切でしたか。		

左の図は、それぞれの評価内容の比較である。内部評価の1～4、外部評価（保護者・児童）それぞれの2～5については、運動会の目標が達成されたかどうかを評価する項目となっている。

一方、その他の項目については、評価者それぞれの立場が異なることから、より多角的な評価が期待できる。そこで、運動会におけるそれぞれの立場の率直な意見が表れるような内容とした。

(イ) 外部評価の回収

保護者による外部評価は、15年度は、当日配布してその場で記入・回収をしてもらった結果、回収率は20%であった。評価の信頼性を高めるためにも、より多くの保護者の評価を得たいと考えた。そこで、今年度は、用紙の配布・記入・回収の方法について改善を試みた。

外部評価（保護者）実施方法の改善	
・前年度（平成15年度）	・今年度（平成16年度）
○当日配布	○前々日配布
○その場で記入	○各家庭で記入
○当日回収	○1週間で回収

16年度の外部評価（保護者）の回収率は70%であった。

ウ 評価結果に基づく改善

(ア) 改善策の提案

評価結果を検討し、運動会の1カ月後・11月10日に行った職員会議での、共通理解のための資料の一部である。

学校自己評価に基づく改善策（提案）

2004/11/10

種別	体育的行事	名称	秋季大運動会	担当	体育的行事係
	平成16年度実施計画・実施内容		評価結果	検討課題・実施計画改善案	
目 標 に つ い て	(1) 日頃の体育学習やその他の教育活動の充実を図り、その成果を総合的に発表する機会とする。	運動会に楽しく参加することができたか (そう思う・だいたい思う) 保護者 (95.7%)			
	(2) 各種の運動競技を楽しい雰囲気の中で力いっぱい行い、心身の健全な発達を図る。	競技種目に一生懸命取り組んでいたか (そう思う・だいたい思う) 保護者 (100%) 教職員 (100%)			⇒各種の運動競技を力いっぱい行い、心身の健全な発達を図る。(たくましい子)
	(3) 規律的な態度や責任・協力・公平などの社会的態度の向上を図る。	友達を応援したり、力を合わせて団体種目に取り組んでいたか (そう思う・だいたい思う) 保護者 (99.1%) 教職員 (96.0%)			⇒クラスや学年を超えて、互いに教え合ったり、励まし合ったりしながら練習や準備に取り組み、仲間意識を高める。(思いやりのある子) 重点項目
	(4) 児童の主体的な活動を保護者や地域の人々に参観あるいは参加してもらい、学校教育に対する理解と関心を深める。	種目で、子どもたちと保護者や地域の人とのふれ合いがみられたか (そう思う・だいたい思う) 保護者 (87.2%) 教職員 (68.0%)			⇒地域や保護者の方々とのおふれ合いを通して、豊かな人間性を培う。(思いやりのある子)
		健康・安全に対する配慮がなされていたか (そう思う・だいたい思う) 保護者 (95.8%) 教職員 (92.0%)			

評価の結果に基づき取り組んだ改善策を具体的に述べたい。

改善の一つめは、実施時期の見直しである。

## 学校自己評価に基づく改善策

■ 今年度(平成16年度)    ▢ 来年度(平成17年度)

○実施期日

日曜日



土曜日

9月17日(第3週)

○計画作成・提示(共通理解)時期

6月計画作成



今年度中計画作成

7月提示

4月提示

長年にわたり、保護者から寄せられた声に応えようと、今年度は、日曜日の実施を計画した。しかし、実施期日についての評価結果は、雨天順延を考えると、土曜日の計画がよい等の意見が、保護者では半数以上教職員でも約85%と共に大多数を占めることとなった。

以上の結果を踏まえ、来年度は9月17日・土曜日の実施を計画することにした。

次に、計画の作成・提示時期の見直しを行った。

今年度は、6月に計画を作成し、7月の職員会議で提示し共通理解を図った。しかし、共働活動充実のためには、子どもたちが主体的に取り組もうとする意欲を大切にしなければならない。また、運動会は日頃の授業の成果を生かす場であることから、共通理解を早めて、じっくり・計画的に取り組めるようにする必要がある。

そこで、来年度の計画を、今年度中に作成しておき、4月に提示・共通理解を図ることにした。

### (イ) 改善策の公表

今回の評価結果を学校だよりで公表したところ、保護者の見学マナー(校庭での飲酒・喫煙)への関心が高まり、PTA主体による改善策の検討が始まった。

### (ウ) 改善への取り組み

実践を通して捉えられたことは、子どもたちが主体的にかかわるという、運動会の目標を達成するために、マネジメントサイクルによる、具体的な取り組みができたということである。

今年度の評価を生かして、来年度へ向けての取り組みをスタートさせることができた。しかし、今年度の取り組みの、本当の意味での成果が問われるのは、来年度の実践にどのように取り組むことができるかである。スタートした計画がその通り実施できるのか、また、実施するためにはどのようにしたらよいのか等々、これからの取り組まなければならない課題は多い。マネジメントサイクルの機能を生かして一つ一つの取り組みを確認しながら前進していきたいと考える。

(3) その他の重点項目について

【最重点・重点教育活動 等】

これまで最重点項目①（算数科の授業の改善）と重点項目の④（共動活動の充実運動）について説明してきたが、ここではその他の重点項目への取り組みと評価結果の概要について述べる。

目指す児童像	最重点・重点教育活動	具 体 項 目
楽しく学ぶ子	①算数科の授業の充実	・少人数指導の充実 ・評価結果の活用
	②学び方支援の推進	・個に応じた指導の工夫
思いやりのある子	③図書館教育の充実	・読書活動の充実 ・図書室の管理・運営の充実
	④共動活動の充実	・異学年とのふれあいを深める児童会活動の工夫 ・集団の一員としての自覚を育てる学校行事の充実 ・心や態度を育てる清掃活動の工夫
たくましい子	⑤体力づくり	・基礎体力の向上
	⑥保健指導	・健康観察の徹底 ・健康意識の向上
	⑦給食指導	・食に対する意識の向上

② 学び方支援

「学び方支援」というのは、小俣小学校独自の特別支援教育活動のことである。

内部評価において、「チームを組んで計画的に支援することができたか。」と、「一人ひとりに応じた『具体的なめあて』に基づく支援によって、児童は生き生きと授業に参加できるようになったか。」の内容では、約2割の職員が「あまりできていない」と答えている。今後の改善策がのぞまれる。

③ 図書館教育

子どもたちによりよい読書習慣が身につくように、読書活動の充実や図書室の管理・運営の充実を図っている。

「週1回の朝の読書指導を実施できたか。」という質問に対し、3/4以上の職員が「そう思う」と答えている。また、「バーコード化になって利用しやすくなったか。」においては、「そう思う」・「だいたいそう思う」に半々の評価を得ている。

④ 共動活動

“共動”というのは、子どもたちが共に活動することを通して、心の教育の充実を図ろう、との考えから設定されたものである。主な活動として、児童会の集会活動や運動会・学習発表会・清掃を考えている。

買い物集会の外部評価（児童）では、「なかよしグループの友だちと協力して準備を進めることができたか。」と「自分の役割や分担の仕事をしっかりと行うことができたか。」の双方において、6割弱の「とてもよくできた」と、3割強の「だいたいできた」という結果を得た。成果として受け止められる。

⑤ 体力づくり

子ども一人一人が自分の基礎体力の向上のため、それぞれの「めあて」を設け、水泳やマラソンに取り組めるように支援している。

⑥ 保健指導

健康観察の徹底や健康意識の向上を図っている。健康観察では体の状態だけでなく、心の様子も見取るようにしている。

その結果、担任のほとんどが「児童の顔を見ながら呼名して健康観察ができた。」としている。また、「児童は、給食後歯みがきをしているか。」においては、約1割が「あまりそう思わない」ととらえてい

るので、歯みがきセットを必ず持ってくるなどの指導を継続する必要がある。

#### ⑦ 給食指導

健康によい食事のとり方を自分で考え、マナーを守って楽しく食事することができるなど、食に対する意識の向上と、食事時間20分の確保や、後かたづけの定着を目指している。

「身支度の指導ができたか。」については、9割以上が「そう思う・だいたいそう思う」と答えている。しかし、「児童は、席に座って待つことができているか。」については、約3割の職員が指導の必要性を感じている。

#### (4) 公表について

学校・家庭・地域が一体となって小俣小学校の子どもたちの力を育てていくことは、きわめて大切なことである。そのためには、家庭や地域の方々に、小俣小の教育を公開することで、学校の教育について深く理解してもらうことが大切である。その結果、学校への理解がさらに深まり、家庭や地域の方々からの一層の支援や協力を得ることができると考える。また、「お便り帳」を通して保護者からの感想が届いたり、地域の方々との会合の席上で、お褒めの言葉や率直なご意見をいただいたりすることなども、大切な外部評価の一つととらえている。

『公表の方法』として、右図のよ  
うに大きく3つにとらえた。「口頭  
による説明」・「文書による説明」・「公  
開による説明」である。

【主な公表】

方法	場 面	対 象 者	主 な 内 容			外部評価
			学校運営	学習指導	児童指導	
口頭 による 説明	PTA総会	保護者	●			
	学校説明会	保護者・評議員	●	●	●	
	学年総会	保護者		●	●	
	学級懇談会	保護者		●	●	
文書 による 説明	夏休み教育懇談	保護者	●	●	●	
	学校だより	保護者・評議員・地域	●	●	●	
	学年だより	保護者		●	●	
	児童指導だより	保護者			●	
	保護だより	保護者		●	●	
公開 による 説明	少人数指導説明	保護者		●		
	道徳(1学期)	保護者・評議員		●	●	●
	算数(2・3学期)	保護者・評議員		●	●	●
	その他の資料	保護者・評議員		●		●
	運動会	保護者	●	●	●	●
	小俣っ子発表会	保護者	●	●	●	

『口頭による説明』の例としては、  
6月29日の学校説明会で、「学校  
案内」をもとにして、今年度の学校  
の概要を説明した。暑い中ではあっ  
たが、PTA会員の1/3をこえる  
出席をいただいた。また、学校と家  
庭との連携がさらに深められるよう  
家庭訪問や夏休み中の教育相談活動  
もしている。

次に、「文書による説明」としては、学年・学級だよりや学校新聞・学校だより等がある。学校だよりでは、評価結果の速報も入れている。また年度当初には、少人数指導の説明の文書を配布し、保護者の理解を深めている。

最後に「公開による説明」であるが、これは子どもの姿を通して、学校教育を理解していただくことを目指している。授業参観や学校行事などでは、目的に応じて保護者や子どもによる外部評価を実施している。また学校評議員には、授業参観を通して、学習指導や環境整備についての評価をいただいている。

このように、子どもが生き生きと学ぶ姿や、評価を通して小俣小学校が改善されていく様子を紹介していくことで、家庭や地域の方々の理解や信頼が深まっていくと考える。

## VI 研究の成果と今後の課題

本研究は、開かれた学校づくりに努め学校教育の充実・改善が図れるよう、これからの学校評価の在り方について、具体的、実践的な研究をとおして明らかにしようとしたものである。2年間という限られた研究期間であるため、まだ様々な課題が残されているが、研究の一つの区切りとして成果と課題を以下のとおりまとめてみた。

### 1 研究の成果

- 学校教育目標の達成を目指し、その年度の経営の重点に対応する重点活動に焦点を当てた学校評価の在り方を明らかにした。
  - ・算数科における「楽しく学ぶ子」の育成を最重点項目として位置付け、全教員による内部評価、保護者や学校評議員による外部評価を実施し、授業の改善に生かしている。
- 年度始めに教育計画と一体化した評価計画を作成し、見通しをもちながら教育活動を展開し評価改善に努めた。
  - ・「どんな内容について、だれが、いつ、どういう方法で」評価するのかを明確にした学校自己評価全体計画を作成し、それに基づき実践している。
- 組織体としての機能を生かして学校評価に取り組んだ。
  - ・学校評価は子供の指導に生かすためにあるとの共通認識の下、全教職員で議論・検討し学校評価を実施している。

### 2 今後の課題

- 今後とも学校教育目標の達成を目指し、実践を通しながら学校評価の在り方について継続研究をしていきたい。
  - ・最重点項目・重点項目にかかわる評価項目の見直し・改善
  - ・評価結果の生かし方と公表の在り方



## 研 究 員

安 倍 昌 司 (小俣小学校教頭)  
尾 花 亘 (小俣小学校教諭)  
中 山 栄 子 (小俣小学校教諭)  
岩 田 光 子 (小俣小学校教諭)

松 村 光 悦 (小俣小学校教諭)  
飯 塚 俊 昭 (小俣小学校教諭)  
浅 海 紀 幸 (小俣小学校教諭)

## 研 究 協 力 者

白 澤 裕 子 (小俣小学校校長)  
植 竹 康 子 (小俣小学校教諭)  
前 川 千 恵 子 (小俣小学校養護教諭)  
原 あや子 (小俣小学校教諭)  
川 崎 等 (小俣小学校教諭)  
小 島 恭 子 (小俣小学校教諭)  
大 貫 晴 美 (小俣小学校教諭)  
柴 崎 直 美 (小俣小学校教諭)  
服 部 知 恵 子 (小俣小学校教諭)  
中 島 知 子 (小俣小学校教諭)  
岩 上 智 子 (小俣小学校教諭)  
田 端 友 佳 (小俣小学校教諭)

刑 部 潔 (小俣小学校講師)  
滝 澤 祐 子 (小俣小学校講師)  
浅 香 万 里 (小俣小学校講師)  
中 島 亜 矢 子 (小俣小学校講師)  
長 谷 川 順 子 (小俣小学校主任)  
久 保 田 陽 子 (小俣小学校主事)  
近 藤 兼 安 (小俣小学校技能員)  
森 富 雄 (小俣小学校技能員)  
阿 由 葉 美 希 (学びの指導員)  
小 和 田 佐 知 江 (心の教育相談員)  
星 野 恵 美 子 (心の教育相談員)

## 平 成 1 5 年 度 研 究 員

齋 川 卓 一 (石塚小学校教諭)

## 平 成 1 5 年 度 研 究 協 力 者

安 藤 成 子 (山前小学校教諭)  
中 野 久 美 枝 (元小俣小学校教諭)  
湯 澤 真 弓 (元小俣小学校講師)

中 島 千 栄 子 (元学びの指導員)  
藤 生 秀 子 (元心の教育相談員)

〔参考資料1〕

学校自己評価（内部評価）

161027 5年 算数科

授業参観アンケート

(A: そう思う B: だいたいそう思う C: あまりそう思わない D: そう思わない)

番号	内 容	A	B	C	D	ご意見をお書きください。
1	事前テストは児童の実態を把握しやすいように工夫されているか。					
2	児童の実態に応じた学習形態を工夫しているか。					
3	児童が学習問題をつかみやすい工夫をしているか。					
4	個別支援計画を生かしながら、その子に応じた支援や指導に努めているか。					
5	学び合いの場が適切に設けられ、機能しているか。					
6	児童は、楽しく学んでいたか。					
7	児童は、『やる気わくわくチェックテスト』で、本時の学習内容の定着状況を確認しているか。					
その他						

〔参考資料2〕

保護者による授業評価

平成16年10月27日

アンケートのお願い

本日の授業参観はいかがでしたか。このアンケートを通して保護者の皆様の率直なご意見・ご感想をいただき、これからの指導に生かしていきたいと考えています。お手数ですが、お帰りまでに、できる範囲でご記入いただき、回収箱へ投函してください。ご協力のほどよろしくお願いします。

A (そう思う)    B (だいたいそう思う)    C (あまりそう思わない)    D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	ご意見がありましたらお書きください。
1	教師は、分かりやすく話したり、説明したりしていましたか。					
2	黒板の使い方や文字などは、ていねいで分かりやすかったですか。					
3	子どもたちは、真剣に学習していましたか。					
4	教室や廊下等の掲示物は、子どもたちを励ますものになっていましたか。					
5	【その他、ご意見やご要望をお書きください。】					

ご協力ありがとうございました。

〔参考資料 3〕

平成 16 年 10 月 2 日

『秋季大運動会』反省

◎下記の項目について、あてはまると思うものに○印を記入してください。お気づきのことをお書きください。

〔 〕

A (そう思う) B (だいたいそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	反 省
1	児童は、競技種目に一生懸命に取り組んでいましたか。					
2	児童は、友達を応援したり、力を合わせて団体種目に取り組んでいましたか。					
3	玉入れ・八木節・PTA種目などで、子どもたちと保護者や地域の人とのふれ合いがみられましたか。					
4	健康・安全に対する配慮がなされていたと思いますか。					
5	来年度からは運動会を土曜日に行いたいと思いますが、いかがですか。					
6	来年度からは運動会を9月中旬(第3週)に行いたいと思いますが、いかがですか。					
7	今年の等賞カードはよかったですか。					
8	各学年種目・全校種目は児童の願いが反映されたものとなっていましたか。					
9	係の仕事内容・人数は適当でしたか。					
10	【入場行進についてお書きください。  【体ほぐしの運動についてお書きください。  【PTA種目についてお書きください。  【その他、反省をお書きください。】					

〔参考資料 4〕

保護者様

平成 16 年 9 月 24 日

『秋季大運動会』についてのアンケートのお願い

このアンケートは、保護者の皆様に『秋季大運動会』についてのご感想やご意見をいただき、これからの教育活動の参考にさせていただくためのものです。

今回の『秋季大運動会』でめざしているものは次の通りです。

- 子どもたちの心と体の健やかな成長
- 協力したり励まし合ったりする心の育成
- 家庭・地域と学校が一体となった取り組み
- 一人ひとりを大切に活動
- ☆ 日曜日の開催を試行いたしました

次の項目について、それぞれ一つずつ○印を付けてください。ご意見がありましたらお書きください。

A (そう思う) B (だいたいそう思う) C(あまりそう思わない) D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	ご意見がありましたらお書きください。
1	運動会にみんなで楽しく参加することができましたか。					
2	お子さんは、競技種目に一生懸命に取り組んでいましたか。					
3	お子さんは、友達を応援したり、力を合わせて団体種目に取り組んでいましたか。					
4	玉入れ・八木節・PTA種目などで、子どもたちと保護者や地域の人とのふれ合いがみられましたか。					
5	健康・安全に対する配慮がなされていましたか。					
6	【今年度は、運動会を日曜日に実施しましたが、いかがでしたか。お書きください。】  【その他、ご意見やご要望をお書きください。】					

ご協力ありがとうございました。

このアンケートは、封筒に入れて、9月30日までに担任に提出してください。

平成16年10月5日

## 『秋季大運動会』についてのアンケート

年 組 名前

このアンケートは、『秋季大運動会』より楽しくするためのものです。

自分が思うとおりに書いてください。

次の内容について、それぞれ一つずつ○印をつけてください。

また、それはなぜですか。理由があったら書いてください。

A (そう思う) B (だいたいそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	理 由
1	あなたは、運動会に楽しく取り組むことができましたか。					
2	あなたは、種目に一生懸命に取り組みましたか。					
3	あなたは、友達を応援したり、力を合わせて団体種目に取り組みましたか。					
4	お家の人や地域の人と、楽しく八木節をおどったり、競技を応援したりしましたか。					
5	安全に気をつけて運動会に参加することができましたか。					
6	兄弟学年なかよしつなひきでは、下級生と力を合わせて楽しくつなひきことができましたか。					
7	あなたは、係の仕事を最後まできちんとやりとげることができましたか。					
8	【こんな運動会にしてほしいという願いや、自分のやりたいことなどがあったら書いてください。】					

内部評価

16年度 後期

【たくましい子】重点教育活動『保健指導』

具体項目 ○健康観察の徹底 ○健康意識の向上

学年 ( )

A (そう思う) B (だいたいそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	理 由
1	児童の顔を見ながら呼名して健康観察できましたか。					
2	3日以上欠席児童には電話等で家庭と連携をとりましたか。					
3	児童は、給食後歯みがきをしていますか。					
4	「うがいカード」は効果的でしたか。(流行期)					
5	児童は、かぜ流行期にうがいをしていますか。					
6	「帰りの会」でクラス児童にけががなかったか確認し家庭と連絡をとりましたか。					
来年度に向けて実践案や改善点がありましたら記入して下さい 給食時の歯みがきの順序を、校内で統一したほうがよいですか？○をつけて下さい。 校内で統一したほうが良い・学級にまかせたほうが良い・その他 ( )						
7	学級で行っている、給食時間内の歯みがきの手順を書いてください。(来年度の指導の参考にします。)					

内部評価

16年度 後期

【たくましい子】重点教育活動『給食指導』

具体項目 ○食に対する意識の向上

学年 ( )

A (そう思う) B (だいたいそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	理 由
1	「ごちそうさまカード」により、準備・片づけについて意識を高めることができましたか。					
2	身じたくの指導ができましたか。					
3	食事の片づけの確認と、コンテナへの収納確認をやっていましたか。					
4	給食時計等を利用しながら、食事時間の確保に心がけましたか。					
5	管理当番の時、配膳室当番を忘れずにやっていましたか。					
6	児童は、席に座って待つことができますか。					
来年度に向けて実践案や改善点がありましたら記入して下さい						
7	学級で行っている、給食時間内の歯みがきの手順を書いてください。(来年度の指導の参考にします。)					
ご意見						

【参考資料6】

内部評価

16年度 後期  
【思いやりのある子】重点教育活動『共動活動の充実』

具体項目 ○心や態度を育てる清掃活動の工夫

A (そう思う) B (だいたいそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	理 由
1	清掃カードを使ったことによって児童の清掃への意識を高めることができましたか。					
2	担当場所の清掃用具の過不足はチェックしていましたか。					
3	身じたくを整え、子どもと共に働く教師でありましたか。					
4	清掃時間は15分で良いと思いますか。					
5	放送の音楽は、効果的でしたか。					
6	児童は、だまって清掃していますか。					
7	児童は、身じたくを整えて清掃していますか。					
8	児童は、用具のしまつ・怒しめをきちんとできていますか。					
9	毎月1週間の清掃習慣（校内巡視含む）は効果がありましたか。					
10	来年度に向けて実践案や改善点がありましたら記入して下さい。					

内部評価

16年度 後期  
【思いやりのある子】重点教育活動『図書館教育の充実』

具体項目 ○読書活動の充実 ○図書館整理・運営の充実

学年 ( )

A (そう思う) B (だいたいそう思う) C (あまりそう思わない) D (そう思わない)

	内 容	A	B	C	D	理 由
1	学級の図書利用割り当て時間を活用していますか。					
2	週1回の朝の読書は実施できましたか。					
3	貸し出しのきまりを守って本を借りるように指導しましたか。					
4	多読賞（目標）を目指して、読書するようすすめましたか。					
5	図書ボランティアの活動は児童の読書意欲を高めることができましたか。					
6	読書週間で取り上げた内容は児童の読書意欲を高めることができましたか。					
7	図書室は、読書しやすい環境になっていますか。					
8	図書室の本は充実していますか。					
9	バーコード化になって利用しやすくなりましたか。					
10	来年度に向けて実践案や改善点がありましたら記入して下さい。  *ご意見をお聞かせ下さい。 ・朝の読書の回数は増やしたほうがよいですか？ （ 回）に増やしたほうがよい・現状でよい ・多読賞賞についてどう思いますか？					
	ご意見					

【参考資料7】